

第54回・第5期第4回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 議事録

開催日時	令和4年（2022年）9月26日（月）18：30～19：55
開催場所	中央公民館 ホール
次 第	1 開会 2 議事 （1）各部会の状況報告 （2）今後の開催日程及び会議種別について （3）市民説明会について 3 その他 4 閉会
出席委員	久会長、飯室委員、加藤委員、檜垣委員、足立委員、中山委員、藤本委員、平原委員、山本委員、沖野委員、井山委員、上西委員、津國委員、川上委員、喜多河委員、番庄委員、政処委員
開催形態	公開（傍聴人0名）

1 開会

事務局から、本日の出席者は16名（遅れて1名参加のため、最終出席者17名）であり、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者はないことを報告した。

2 議事

（1）各部会の状況報告

ア 協働契約のあり方検討部会の検討状況について、作業班メンバーからの報告後、意見交換を行った。内容は以下の通り。

（ア）（会長）只今の報告内容を中心に何かご意見やご質問はあるか。

（イ）（意見なし）

（ウ）（会長）また後程、後半期のスケジュール調整もさせていただきたいと思うが、協働契約のあり方検討部会は作業班を作って進めているので、また作業班及び部会で揉んでいただいて、全体会の方でも協議をさせていただければと思う。

イ 協働のマニュアル検討部会の状況報告について、事務局より配布資料に基づき説明及び報告を行った後、意見交換を行った。内容は以下の通り。

（ア）（会長）先ほどの報告の通り、作業班を作るということになったが、協働契約のあり方検討部会の作業班とかなりメンバーも重なってくるだろうということで、しばらくは山場を迎えている契約のガイドラインに注力をさせていただいて、契約のガイドラインが落ち着いた段階で協働のマニュアルの検討作業を進めたらどうかという話になった。何かご質問やご意見はあるか。

(イ) 私のまち協の住民は2万2千人いる。運営は実は協働のマニュアルを全く使っていない。透明性・公平性・継続性、この3つを支点としてやっているが、例えばまち協の活動・運営を円滑にするためには、こういったマニュアルでどういった進め方をすればいいのか教えていただけたらと思う。というのは、マニュアルというのはあくまでも1つの指針で、この方針でこういう運営をすることによってこれが出来上がるという、自分にとってはバックアップデータみたいなもの。マニュアルが厚くなればなるほど組織は動かなくなってしまう。私は、基本的にはシンプルにまち協を動かしていくというのが1つの考え方。それで十分できている。その辺りはいかがか。

(ウ) (会長) 名前もまた検討しないといけないと思うが、マニュアルというのは、先ほどおっしゃったようなかなり微に入り細に入り書いているものから、ツボやポイントのようなもので収めているものもあり、様々なレベルがある。協働のマニュアルは見ていただいたら分かると思うが、前者ではないことは確か。こういうように進めていけば協働が上手くいくのではないかと、というようなコツやツボを書いていると理解している。そこがもう少し違う内容でという場合は、検討部会の検討内容に入ってこようかと思うが、今のところ微に入り細に入り書いていないのは確かかと思う。

(エ) (会長) まち協の運営のご質問かと思うが、20のまち協で土地柄も参加されている方々もやり方もかなり違っていると思うので、それを1つのマニュアルでというのは当然無理だろうし、それぞれのまち協のやり易い方法でやっていただけたらと思うが、ただ、こういうところは気を付けたらいいのではないかと、こういうところが上手く進めるための秘訣ではないかと、というレベルでは共有できる部分もあろうかと思うので、そこは今のマニュアルも押さえてるのではないかと考えている。他ご質問やご意見はあるか。

(オ) (意見なし)

(カ) (会長) 協働のマニュアルの検討を少しペースダウンしているが、契約のガイドラインの方が一段落した時点でまたこちらにも注力して、より良いマニュアルになるよう検討を進めていければと思う。

(2) 今後の開催日程及び会議種別について

事務局より配布資料に基づき説明を行った後、意見交換を行った。内容は以下の通り。

ア (会長) 先ほども申し上げたように、契約部会の方に注力し、下半期はガイドラインをほぼ完成させていただきたいと思う。そういう意味で、今のところの案としては契約部会作業班と契約部会の並列にしている。何かご質問やご意見はあるか。

イ 評価はネガティブな捉え方をされるということだが、決して評価というのはネガティブではなくてポジティブだと思う。その受け止め方がネガティブであればそうなるが、評価というのは透明性・継続性・公平性を担保するためにやると思う。

- この辺りを振り返りという形でみるということだが、例えばまち協は、市から補助金も頂戴しているが、結果に対して全く評価はない。要するに自己責任ということで運営し、足りない予算でそれをどう考えていくか。つまり、人件費はいらないので、事業に対していかに効率的にみんなを巻き込むかというのが1つのやり方。他の団体のやり方もまち協とは違うけれど、評価は非常に大事だと思う。それを振り返りという形でやるのはあまりにも短絡的ではないかと思うが、いかがか。
- ウ 振り返りという意味の捉え方が違うと思う。私どもが議論してきた中で、協働でやるには事業をきちんと評価しましょうというのが背景にある。その中で、当然まち協もそうだが、委託となれば市がやるべきことを団体がやるという形になるので、市がやろうとすることを受託側もきちんと踏まえてやっていこうということ。だから、振り返るといえるのはニュアンスとしては甘く受け取られているかもしれないが、逆に厳しくとっていく必要がある。振り返ってみて何が失敗したのか、それはどちらの責任なのか、両者に責任があるのであれば、それを解決するためにはどうすればいいかということも出てくる。評価というと、どうしてもイメージとしては誰かが誰かを評価するという感覚だが、そうではなくてお互いが振り返るので、双方ができなかったことに関してはちゃんと述べて、片方できなかったらもう一方がサポートするとか、両方できなければどうすればいいかということをそこで議論する。振り返りというのはすごく柔らかな書き方をしているけれど、捉え方としてはもっと厳しく捉えてもらった方がいいと思う。逆に言えば評価シートをなくしているが、両方で話し合い、場合によってはガイドラインに書いていなくても、話し合いの中で評価シートを使いましょうということが出てくるかもしれない。評価という言葉を振り返りに変えているが、決して振り返りというのはいかに甘いものではないということは自覚しておかないといけない。
- エ (会長) 言葉遣いでイメージをどうするかということでの、用語の選択ということ。何という言葉を使ったとしても、やるべきことは変わらないという説明かと思う。そこをガイドラインでも共有できるように書いておくことがポイントかと思う。ちなみに大学も、ここ数十年大学同士が相互評価をしているが、その時は“自己点検評価”という2段階構えで書いている。まずは自分が点検し、その点検内容が妥当かどうかを他の大学教員が評価する。その代わり、評価を受けた側は違う大学の評価をすることで、お互い対等な立場で相互評価していくということをしている。そういう部分も、言葉として上から評価するという言い方をしないということを、大学の評価ではかなり慎重にお互い共有しておくようにしている。実は大学設置基準という法律があるが、文部科学省から改定案が出ており、その中でも相互評価を大学設置基準の中に位置付けていくという提案を受けている。今までは文科省がチェックをするという感じだったが、文科省はガイドライン的なものを用意するだけで、大学同士で対等な立場でチェックし合うようにというのが基準の中でも書かれるところ。今部会で議論されているのはそれに近いニュ

アンスかと思うので、どういう内容なのか、あるいは誰がどういう立場でお互いに振り返っていくのかということをご丁寧に書いていただくと共有はできるのかなと期待している。他はいかがか。

オ （意見なし）

カ （会長）まだ作業によって流動的なところが残っているが、提案いただいたスケジュールで当面進めていくということで了解を得たことにさせていただく。特に10月26日の会議がなくなったのでご留意いただければと思う。

（3）市民説明会について

事務局より配布資料に基づき説明を行った後、意見交換を行った。内容は以下の通り。

ア （会長）事務局から2点提案があったと理解している。1点目は、今年度の市民説明会は、コロナ禍が収まりきらないこととこれから準備するにはスケジュールがタイトだということで、開催を見送らせていただければという提案だった。この点いかがか。せっかくだから、何らかの形でやりましょうという声はあるか。

イ （意見なし）

ウ （会長）それでは、今年度は市民説明会を見送ることにして、2点目の提案の来年度やるとすればどういう内容でやるのかということについて、フリーディスカッションで議論をとということだった。こんな話がしたい、こんな話を聞きたい等いかがか。

エ 担い手の問題は地域では非常に切実な問題で、ぜひこの協働のまちづくり促進委員会で後押しするような意味で、議論の機会を持ったらどうかというのを重ねて提案したい。

オ （会長）生駒市は市政50周年の記念のシンポジウムで、30代40代の市民活動の担い手に集まっていただきお話をした。例えば宝塚市でもそれくらいの年代の方に集まっていただき、具体的には事例報告やシンポジウムをしていただくという手もあると思う。こういう具体的な話でも抽象的な話でもいいいかがか。

カ 私が今1番知りたいのは、なぜ勤労者世帯がまちづくりのコミュニティ活動に参加してこないのか、あるいは勤労者世帯の方々がこうなれば参加できるということについて、もっとクリアにしていかなければならない。今まではどちらかというと“協働のまちづくり”という観点での説明会だったが、今後協働のまちづくりをしていくためにはどうしても若い人達の参加が必要になってくる。ではそういう人達が参加できる環境作りはどうしたらいいのかということをご、当事者の方々から意見を聞きながら話し合いたい。フューチャーデザインという言葉が最近知ったが、仮想未来人になって今をどうするか考えていく。要するに、現時点でこれから先を考えるのではなく、将来、例えば20年後自分がどういう状況に置かれているかを考え、現在をどうするか考える。今でいうと、若い人達が将来いずれにしてもコミュニティ活動に関わらなくてはならない。そういう人達がどうす

れば現役時代から入って来られるのかということについて、市民説明会の中で話し合ってもらおう。シンポジウムやグループディスカッションでもいいが、そういうことをやることで私達も知ることができるし、勤労者世代も参加しなきゃいけない意識を持ちながら、ではどうすればいいのかというところを一緒になって考えていく、そんな会にしたらどうかと思う。

キ (会長) いつも申し上げている話だが、先ほどの生駒市の30代40代もそうだが、働き世代であったとしても社会活動はしている。ただ、その方々が今までのコミュニティ活動に関わっているかというところもそうでもない。その辺りの構図をもう少し上手く整理して、説明会でどういう促し方をすれば若い方々もコミュニティ活動に参加できるのかというシナリオが見えたら面白い。

ク 説明会の具体的な内容から離れてしまうが、その手前の話として考えたいのが子ども議会について。小学生に何人か来てもらって色々な意見を言ってもらい、それを市長はじめ行政側が検討するというこの仕組みは相当長くやっていて、これでいいのかと思う。その仕組みを考えた時代とは相当変わっていて、社会・子ども・学校の状況もまちづくり協議会・自治会の在り方も、かなり今の状況にマッチしない形。後継者の問題もある。こういう中で、例えば小学生だけでなく中学生・高校生あるいは宝塚に通学している他市の子どものまちづくりの対象になるので、そういう人達の発言する機会、まちづくりに参加する意見を聞くような仕組みをもう1度きちんとして、その中から今まで取り組んでいないアソシエーションの意見もとりあえずみんなを出してどうしたらいいのかということを考えないと、まち協も後継者不足解消などという論議をする状況になっていかないのではと思う。イメージとしては、そういう人達の意見がワイワイと集まって、1つの方向性が見えて行政もやり方を変え、あるいは住民側もここを変えていこうという意見が出せる、あるいは意見がまとまるような方向性を持った説明会。それが説明会になるか分からないが、そういう活動が必要ではないかと思っている。

ケ (会長) 昨日うちの大学のオープンキャンパスだった。今の高校生が必ず質問してくるのは、大学に入ってからまちづくり活動やボランティア活動はできるか、そういう機会を提供してもらえるか、という質問。実際に高校生の時にやっている人達もいる。にも関わらず、地域では中々顔が見えないという声があるし、学生に「外の地域で手伝うぐらいなら自分の地域でできないのか」と聞くと、「機会がない」という話になるので、マッチングが上手くいっていないのだと思う。さらにその延長で言うと、今若い人という年代で切っているが、私はおそらくそうではないとも思っている。具体的に言うと、青年団・PTAとかいわゆる従来型の組織を運営されてきた若い方は、今新しい動き方をしている若い方と違う動き方をしている。そこは年代で切るよりも、組織や活動の動かし方で分けた方がすんなりいくのかなと思う。おそらく60代70代の方でも、コミュニティ活動を担っている皆さんのような方もおられる一方で、別の活動を一生懸命されている方々もいて、そういう方々は逆にコミュニティ活動には少し距離を置いている。

ということは、結局どんな年代でも同じような悩みがあると思うので、その辺りをまた色々な切り口で議論して、どういう方に集まっていただいてどんな話をしたらいいのかというのを、今後も意見交換させていただければと思う。他はいかがか。

- コ お聞きしたいのは、自身が属するまち協のブログをご覧になったことがあるか。見ていただくとまち協の姿が分かるが、ものすごくばらつきがある。写真を見ると年齢層の高い方もいる。私のまち協では自分が1番高齢者で、副会長はみんな現役。これはたまたまそうなのではなく、旧来から色々な方が、特に学校や地域の色々な活動部隊とネットワーク作りをしていただいたから。結局、市民から見たらまち協は敷居が高く、何をしているか分からない。理解してもらっているようでほとんど理解してもらっていない。その辺りは我々も反省してやっつけていかなければならないし、今後の促進委員会であれば、最大のテーマは人づくり・後継者対策。この優先順位が1番だと思う。自分のまち協で現役世代が入ってくれたのは、ビジネスとボランティアは全く一緒に、ボランティアをやっていたら絶対ビジネスに役に立つと説得すると一発でほとんどの方が参加してくれた。仕事をしているからといって活動の弊害にはなっていない。もう1つ、私は役員を長くやるつもりは全くなく、できれば1期2年か最高でも4年で辞めたい。要するに、禅譲していかないと組織は腐ってしまい育たない。今のまち協の役員の方は高齢者が多いが、基本的には後継者がいない。それは我々が後継者の道を閉ざしているという状況になっている。だから、その辺りをどうしていくかというのをこの促進委員会で議論していただく。促進委員会というのはまち協の活動だけでなく、自治会活動や市民活動を支えるために具体的にどうするか、問題点は何かということ掘り下げて、皆さんの知見・経験等を融合させてアドバイスをしていくというスタイルをとらないと、このままいくと残念ながら活動できなくなるまち協も出てくると思う。その辺りのことを今後この会では議論していただきたいと強く感じる。自分のまち協の場合は、今度のイベント参加者は若手が非常に多く、中学生も参加する。結局担い手は、若手が参加できるような仕組みを我々が作って、まち協は共催で主催はあくまでもやりたい人を集めていい意味で好き勝手やってもらおう。要するに、これしてあれしてとは一切言わない。そういう動き方をしていくことで、それが防災にも繋がるが、顔の見える関係ができていく。その好循環を作るきっかけを作れば、皆さん見ているので若い人も入ってくるのではないかと思う。
- サ 宝塚はかなり歴史のある町だが、いったい誰が町・人・市を支えているのかというのを、自分も含め皆分かっているのか確認すると、色々な団体や活動する人が出てくるのだろうと思う。宝塚で消防団があるのが西谷地区だけで、あとは消防署。消防団は昔たくさんあったと思うが、今はもう宝塚では1箇所だけ。西谷では消防団だけでなく、青年会や子ども会等色々な昔の組織がずっと町を支えていて、支えているのはまち協・自治会だけではない。西谷のそういうところやNPOセ

ンターの新しい居場所作りの動きが、まち協や自治会でやれるとは思っていないと思う。こういう動きが出てきて、まち協で言えば、まち協の範囲にある人を誰が支えているのかというのをもう1度みんなが自覚して、まち協全体でそっちはそういうことになっている、こっちでもできる、というような整理がこれから非常に大事になるのだろう。そういう意味では、NPOセンターがやろうとしていることにはかなり注目している。

シ (会長) 私は住んでいる町で市民活動もして、その活動は大体地元の事業者が中心にまわす。自治会長や活動団体の会長等もほぼ事業者がされている。そういう意味で言うと、市民活動を担っている人にかかなりの割合で地元事業者が入っており、そこがその市の特徴。一方で、先ほどから働き世代の話で出てくるのが、サラリーマンがイメージになりがちではないかと思う。宝塚も数は多くないが地元で会社やお店を切り盛りしている地元事業者もいて、そういう方々に上手く活動に関わっていただくと、また活気がプラスアルファされるのではないかと思う。その辺りの宝塚の特徴は、いわゆる住宅都市がベースになっているので、働く＝サラリーマンというのが特徴かと思う。そこも念頭に置きながら考えていただくと色々な話が見えてくるし、根底から考えると宝塚市のこれからの地域のあり方、誰がどう担っていくのかというのも多角的に見えてくるのかなと思った。他はいかがか。

ス 今、まちづくりに参加する人のことを思い浮かべた。私は宝塚に引っ越してきた時にPTAの役員等小学校に関わって子育てをし、子どもが高校・大学になったときに校区を引っ越した。そうすると、その引っ越し先の校区ではまちづくりに関われなくなっている。それは、今増えている子どものいない若いご夫婦も同じなのかなと思っていて、そういう人でも関われるまちづくりをするにはどうしたらいいのかと今話を聞きながら思っていた。どうしても、まちづくり＝そこで子育てをして皆さんと親しくなった人。でもそうではない人もたくさんいて、そういう人達が宝塚の人口でどれくらいを占めているのか考えてみると、そういう人達が関わらない限り、たぶん1人暮らしの高齢者を支えるというのもできないし、まちづくりからかけ離れている人が増えているのではないかと考えている。その辺りを、参加される方が気付くような会ができたらいいなと。参加される方に教える会ではなくて、参加する方がそれに気づいてその後何かの行動を起こす。それはまち協の会長だったり、あるいはまちづくりに関わっていない普通に生活されている方だったりというような、気が付く会になったらいいと思う。

セ (会長) 昔は両親と子ども2人の“標準世帯”という言葉もあったが、今はもうそういう時代じゃない。家族スタイルもライフスタイルも多様化しているのだから、どういうライフスタイルを送っている方に、どういうメッセージを発信できるかというのを多様に考えてみませんかという提案かと思う。時間をかけて考えていくと面白い答えが出てくるかもしれない。

ソ 色々な仕方で活動している方がいて、そういう方達にも大勢まちづくりに参加し

てほしいと本当に思う。色々な活動を通して思うことは、私自身戒めとして思っていることだが、高齢になればなるほど若い人を指導してやる、教えてやるという側面が強く出て、それが嫌だから多世代で交流したくないという若い人がやはり一定数いる。これが例えば、高齢者から若い人、男性から女性に向かうことがとてもよくあるということが、ここにいる皆さんであれば分かると思う。その地域でずっと暮らしてこういう活動をしてきた人にとっては、ほんの軽口のつもりで言ったことでも若い世代はとても傷つく。例えば、昔からよく知っている男の子が、結婚して子どもが生まれて地域の催しに行った時に、少しでも箸の持ち方がおかしいと「なんだお前そんな教育して」と、高齢の方がそのお父さんになった男の子に軽口のつもりで言う。でもよそから嫁いできた奥さんにとってその人は知らない人で、そういう会話のできる間柄ではないのでとても傷つく。そういうことをずっと長く地域で活動している人達は気を付けないといけない。私が現役でPTAをやっていた時に、宝塚市に食育の先生が来て公民館で食育講演会をされた時に、「今の若い保護者が子どもに朝ご飯を作らない。保育園に送っていく自転車の後ろで子どもがスナックパンをかじっている。いったい今の若い親の食育はどうなっているんだ。」と言うと、聞いている70代80代くらいの人達が、全くその通りだという風に頭がもげるぐらいうんうんと頷く。しかしその先生が、「ではそういう食育ができない親世代を育てたのはどこの誰？」と言うと、ぴたっと頭が止まった。そういうことをいっぱい今まで見てくると、本当に色々な世代の人に参加してほしいが、そのためには長くやっている人達、それから年齢が上・立場の強い人達が、そうではない人達がどれだけ参加しやすい場を作れるのかということにかかってくるころもあると思っている。

タ (会長) 言い方を変えると、自分の価値観を押し付けないということ。私も大学教員として最近痛感していることは、昔は叱咤激励をしていたつもりなのに今はそれがハラスメントになってしまう。同じことをしていても学生の捉え方でハラスメントに変わってしまうことを実感しているので、やはり時代も変わっているし、あるいはお互いの価値観が違うところを擦り合わせていかないといけないというのは同感。

チ まちづくりの活動というのは、自治会、PTA、まち協だけではない本当に地域の色々な立場の方が参画して初めてできるということを、中々言葉で言っても分からない。宝塚UGANまつりというのは、2年前に宝塚大劇場の対岸が芝生化されて開放されたスペースで行われるが、ここを舞台に、まち協や住んでいる方みんなまでここを活性化していこうということで、今回南口で活動されている方、色々な市民活動をされている方、もちろんPTAの担い手の方、あとは校区内の中学校に正式に申し入れてボランティアも出していただくことになっている。今までお祭りは小学校のグラウンドを借りていたが、今のコロナ禍では中々ハードルが高いのと、小学校であるお祭りは、子どもの繋がりが無いと行けないのではないかとハードルが今まであったよう。でもこういう場所でお祭りをすることに

よって、地域の方や故縁がない方でもふらっと来られて、担い手も色々な立場の方が携わっていくようなことを1回1回重ねながら、みんなで作るまちづくり、これがまちづくりの柱なんだということを可視化していけたらと思う。文字化するのは難しいが、実践を通じてやっていくしかないと思っている。

- ツ (会長) 今話された取組の中で、こんな方がいたんだという発見はあったか。
- テ 前回、担い手の友人の方でまさに子どもがいなくて引っ越してきて、何かできるのかと言われた方が2組いた。直前に連絡があって、実際にお弁当の販売や、当日来てすぐできるお手伝いをしてもらったということがあった。
- ト (会長) なぜお聞きしたかという、こういうイベントの中で発見があればいいなと思っていて、というのは、組織にデビューするのはとてもハードルが高い。だからまずはイベントでデビューしていただいて、そこで足を掴まれると拒否反応が出てしまうので、しばらくお付き合いをする中で人間関係を作って、向こうから「こういうところにも参加できたら」という声が自発的に出てくるのが1番いい。入口としてイベントはすごくいいと思う。私も地域と一緒に色々なイベントをしていて、こんな人がいたのかという発見が出てくるので、そういう機会をもっと宝塚でも色々な地域で作っていただけたら嬉しいと思う。
- ナ コミュニティ活動の参加の仕方として、1つはイベントで手伝ってほしいことがあれば募集するという。これまでも、子どもがいれば一緒についてくるというケースはあったが、子どもはいなくても手伝うことがあれば参加できるような仕組みを作る。2つ目は、困った人に対して助ける仕組みを地域でたくさん作っていく必要がある。そこから繋がりが出来た中で、こういう繋がりは地域で必要だと目覚めれば、そういう方も自分にできるところから参加されると思う。まちづくりあるいは自治会もそうだが、ハード面や従来から固定したやり方をするのではなく、もっと市民全員、地域全員に「本当にまちづくりは必要なんだ、人助けになっているんだ」と気づいてもらえるような仕組みや会を作っていかないと自分達が大変。今ちょうど私が困っているのは、PTAの方々に参加してもらおうと思っても、やはりまず仕事をしているから参加できないと言われる。だけど、例えば災害があったときにどうするのかということを考える機会を作ってもらって、訓練に参加することによって、災害になったらこういうことをすればいいんだということを経験してもらおうということ。もう1つは、困ったときに助けてくださいと言える仲間を作ろうとしている。今ちょうど保護者の方々が作っていて、どんどん広げていけたらいい。地道だが、組織の中に入るのではなく、最初の人の繋がりが作れるような催し物や会、いっそ飲み会でもいい。そういったことをやることで、段々と参加しなくてはいけない、全てに参加しなくてもこれなら参加できるという機会を作っていく必要があるのかなと思う。
- ニ (会長) よく断られる理由に「時間がない」という言い方があるが、時間は24時間皆にあるので優先順位が違うだけ。時間がないという理由はなくて、あなたが優先的にしている活動と、その時間帯にやろうとしている活動の優先順位が違う

だけなので、その優先順位を変えていただくと見方が変わってくるという言い方をする。先ほどの話は防災という話を持ち出したことで、優先順位を高めたということだと思う。おそらく土日は忙しいというけれど、子どもを連れてとか友達同士で遊びに行く時間はあったとしたら、その遊びに行く時間を地域の行事で遊んで時間を費やしていただくことができれば、地域に残っていただけると思う。さらに言えば、そういう企画ごとを楽しみに変えていただくと、充実した時間が過ごせるかもしれないとか、そこの工夫があれば色々見えてくる部分があるのではないかと思う。今いわゆる地域活動の優先順位が低い方々が多いので、そこをどう高めていくかという工夫を市民説明会に来られた人からいただいたり、あるいはここで意見交換したりという機会があればいいと思った。他はいかがか。

ヌ (意見なし)

ネ (会長) 今日の話の中で禅譲すればいいという話もあったが、他市のあるまちづくり協議会が、3年前に今までの役員が全て降り、その代わり40代50代の人に全部お任せすることになった。その時に、今の会長が前の会長に「任せてもらえるということは、口も挟まないということか?」と確認された。好きなようにやっていいということで引き受けられて、今の会長のネットワークで40代50代を集めて活動されているおもしろい事例もある。さらにユニークなのが、リーダーの名前が付いた部会ばかり作っている。今の会長に尋ねると、リーダーがやりたいことをしたらよくて、何をするという名前ではなくリーダーの名前の部会にメンバーが集まって、何をするか毎年決めている。そういうユニークな運営方法をされていることも参考にしたり、またこちらに来ていただいて意見交換の場を作っても面白い。

ノ (会長) 事務局の方で記録に残していただいているので、これを膨らましながら来年度の市民説明会に持っていければと思う。また全体会で何度か話をさせていただくので、こういうネタもある、こういう話がしたい等あれば次回以降も持ち寄っていただけたらと思う。

3 その他

- (1) 委員より、シングルマザーハウスについて紹介があった。行政を含め色々な方に協力いただき、色々な方との協働でできたハウスであり、今後も皆様に協力いただきながら運営していきたいとのこと。
- (2) 委員より、自身の地域活動について報告があった。まち歩きをしてみんなで一緒に食事をするので、堅苦しい話ではなく本音が聞けたり、新たな人材の発見もあった。とても盛り上がり、これを担い手作りや防災にも繋げていくとのこと。

4 閉会

以上